

大正・十和地域の皆さんこんにちは。

本校のホームページにアクセスしていただき、誠にありがとうございます。

私は、この春、四万十高等学校の校長として着任した豊嶋寿昭（とよしまとしあき）と申します。これからの進路を考えている中学生の皆さんと保護者の方々に、四万十高等学校のことをもっとよく知ってもらえるよう、少し、学校の説明をさせていただきます。

四万十町は、淡路島より広い面積の中に約1万8千人の人々が生活していますが、少子高齢化が進行し、65歳以上の方の割合は約39%と大変多くなっています。若い方が少なくなる分、地域は中学生や高校生の今後の活躍に期待しています。

本校は「自分で考えて行動できる生徒を育成する」ことを目標に置き、地域・保護者、そして生徒のみなさんの熱意を生かし、①「学びの基盤となる知識と学ぶすべ（基礎学力）」、②「他者を理解し、自らを律する力」、③「自己の能力、適性を踏まえ進路を決定する力」を授業や学校行事、部活動や生徒会活動を通して、引き出すようにしています。

多くの生徒たちは、部活動や生徒会活動、学校行事で頑張っており、環境問題や地域の活性化に向けてチームを作り自主的に取り組んでいる生徒も多く、四万十川の水質調査・不入山（いらずやま）フィールドワーク（四万十川の源流点）・ふるさと学習発表会・英語暗唱弁論大会・意見発表会などで中学生と交流を行っています。

特に、本校の特徴である自然環境コースでは、四万十川の周辺のフィールドはもちろんのこと、屋久島や大月町の柱島など様々な自然豊かな地域へ出かけ、体験や経験を通して勉強し、それをいろいろな機会に発表・プレゼンテーションを行うことを通しながら大きく成長し、自然環境と共存する社会づくりに活躍している卒業生も多くいます。

具体的には、土佐海援丸（かいえんまる）という高知県の実習船で屋久島に行き、ユネスコ自然遺産に登録されている屋久杉自生林や西部林道付近の森林で登山・観察したり、魚種の豊富なことで知られる大月町（おおつき）の柏島（かしわじま）でシュノーケリングをして海の環境を学んだり、ブナの原生林があり四万十川支流で一番清流度の高い「黒尊川」の上流域でサバイバル的な宿泊研修を行うなど、日本で一番幅広く体験を通して自然を学んでいる学校だと思います。

また、教職員は、大正、北ノ川、十川、昭和の4つの中学校と連携し、中高の教員が力を合わせて教材作りや授業研究などを行い、それぞれの地域に根差し、社会貢献への一歩踏み出す生徒の育成に努めています。

将来に大きな夢を持ち、大きく羽ばたこうと考えている中学生のみなさん、ぜひ、四万十高校に入学してください。

なお、自然環境コースの詳しいことや学校教育方針については、ホームページで続けてご覧ください。